

# 起業家精神涵養のための 「若手経営幹部候補米国派遣プログラム」研修結果報告

関経連は、若手人材の起業家精神を育て、企業のグローバル化を支える経営人材の育成をはかるため、駐大阪・神戸米国総領事館との共催による新たな研修プログラムを実施した。関西の中堅・中小企業の若手経営幹部候補8名を公募により選拔し、2011年7月から12月にかけて米国西海岸および日本国内において研修を実施。研修生は企業革新プランを発表し、各社のイノベーターになるための第一歩を踏み出した。

## ルース駐日米国大使の提案に 応え、プログラムを策定

近年、社会人、学生を問わず、若者の内向き志向を懸念する声が高まっている。こうした状況に対し、2010年2月の関西財界セミナーで「イノベーションと起業家精神のあり方」について特別講演を行ったジョン・V・ルース駐日米国大使から、若手人材が米国で起業家精神を肌で感じる機会を設けてはどうかとの提案がなされた。

これを受け、当会は駐大阪・神戸米国総領事館との協力・連携のもと、米国派遣プログラムを立ち上げた。若手人材の起業家精神を涵養し、企業のグローバル化を支える経営人

材の育成をはかるとともに、米国西海岸と関西のビジネス交流・連携拡大の契機とすることがプログラムのねらいである。

4月から中堅・中小企業を含む当会会員企業の若手経営人材を対象に研修生を公募。書類審査・面接により30代を中心とする8名を選抜した。

## プログラムは3部構成

プログラムは、7月～12月にかけて、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科の定藤繁樹教授によるコーディネートのもと、事前研修、現地研修、事後研修および研修報告会の3部構成で実施された(図)。

### ■事前研修

事前研修では、立命館大学テクノロジー・マネジメント研究科の玄場公則教授の講義により、シリコンバレーの現状や産学連携によるイノベーションの創出などについて学ぶとともに、定藤教授から、米国ベンチャーの歴史や事例の紹介、SWOT分析を含むさまざまなマーケティング手法によるビジネスプランの策定について講義を受けた。これらをもとに、研修生は自社の抱えている課題を検証。自社を革新する案(企業革新プラン)を作り、グループ討議を行った。

### ■現地研修

米国西海岸(サンフランシスコ、シリコンバレー)における現地研修の

〈図 プログラムの流れ〉



前半は、米国国務省が主催する研修プログラムに参加し、インキュベーション施設の見学や、入居しているベンチャー企業との意見交換を行った。また、ベンチャーキャピタルや起業支援機関の訪問、スタンフォード大学等の教官による講義聴講、ネットワーキングイベントへの参加を通して、起業家精神を育む環境を体感した。



インキュベーション施設見学  
(Plug & Play Center)



米国企業訪問(IDEO社)

後半の当会主催のプログラムでは、在サンフランシスコ日本総領事館および現地で活躍する日本の企業人との交流会や企業訪問を通じ、シ

リコンバレーで活躍する日本人の生の声を聞き、イノベーションを自社に取り込むヒントを得た。

研修生からは、「リスクを取らないことがリスク」という起業家精神のあり方に刺激を受けた」「他企業・他部署との活発な交流が、イノベーションの源泉となっている」「アジアでのマーケット拡大ばかりに目を向けず、シリコンバレーにおいて世界レベルのネットワーク構築をはかることが重要である」「エコシステム(生態系)のように分業・協業する仕組みが必要と感じた」などの感想が寄せられた。

#### ■事後研修・研修報告会

これまでの研修で得た知識をふまえ、事後研修では各自の企業革新プランについてグループ討議を重ね、ブラッシュアップを行った。

2011年12月7日に開催した研修報告会では、研修生がそれぞれ、派遣元企業の経営者や人事担当者に向け、完成した企業革新プランを発表。新たな製品やプロジェクト、人事制度などを提案した。研修生を派遣した企業の経営者からは、「異業種交流の場として、良い機会を提供してくれた。参加企業とのコラボレーションを実現できれば素晴らしい。



企業革新プランの発表

ぜひ、これからも研修を継続してほしい」など、好評を得た。

また、発表を聞いた下妻前関経連会長(現相談役)は、「今回の革新プランではFor the company(自社のために)の精神がよくあらわれている。研修生には、自社でイノベティブな役割を果たしてくれることを期待する。今後も関西の若手グローバル人材の育成を支援したい」とコメントした。

#### 次回実施に向けて

当会では、研修生の派遣元企業や関係者へのヒアリングを実施し、研修のあり方について検討した上で、本プログラムを継続実施する予定である。こういった取り組みを通じて、若手人材によるイノベーションの輪を広げ、関西企業の活性化・グローバル化をめざしていく。

(国際部 池田美代)

## シリコンバレーの概況

シリコンバレーの人口は244万人。うち約3割をアジア系が占めており、年々その割合は増加している。IT系職種では6割が海外出身者で、インド18%、中国7%、ベトナム6%が上位を占め、日本は1.5%と割合は低い。2010年度現在、547社の日本企業が進出しており、業種別割合はサービス業が28%、製造業が24%である。リーマン・ショックの影響で、日本企業数は減少傾向にある。

約400のベンチャーキャピタルがひしめき、年間100

億ドルの投資(全米の4割)が行われるシリコンバレーには、ベンチャー企業が集積し、人材の吸引力・流動性が極めて高い。ビジネスのトレンドは、半導体などのITビジネスやバイオビジネスから、ソーシャル・ネットワークなどのコンテンツビジネスやクリーンテックビジネスへ移りつつある。2009年に一時的に落ち込んだ投資機運は、回復傾向にあり、M&AやIPO(新規株式公開)の数はリーマン・ショック以前より増加している。